



庁内オープン・スペース・ミーティング **「開かれた対話・新しい小田原へ」報告書**





00 目次

01 庁内OSMの概要	 1
02 招待状コメント	 5
03 セッション（Ⅰ・Ⅱ）	 8
04 バースデーケーキセッション	 12
05 チェックアウト	 13
06 参加者アンケート(振り返りシート)	 15

【資料編】

◇ 招待状コメント集	 22
◇ セッション（Ⅰ・Ⅱ）議事録	 35
◇ バースデーケーキセッション議事録	 61
◇ チェックアウト議事録	 70
◇ 参加者アンケート結果	 72

01 庁内OSMの概要

◆庁内オープン・スペース・ミーティング「開かれた対話・新しい小田原へ」の概要

- [日 時] 平成21年7月15日(水)10時～17時
- [場 所] 生涯学習センターけやきホール
- [参加者] 139名(セッション参加者:122名)
- [ねらい] シナリオ作成の過程等を踏まえ、今後の小田原市をどうしていきたいのかについて役割や組織の垣根を越えてオープンに話し合うことによって、よりよい小田原の未来を創ることにつなげる
- [概 要]
 - ✧ 参加者が以下のようなテーマを自由に出し合う
情熱と主体性を持って、
 - ・小田原をよくするために皆で話し合った方が良いテーマ
 - ・皆からアイデアなどをもらって、さらに探求したいと思うテーマ
 - ・自分が取り組みたいと考えているテーマ
 - ✧ 各テーマに関心のある人が集い、オープンな話し合いを行い、話し合った内容、及び結論・提言を議事録にまとめる
 - ✧ 話し合われたテーマのうち、参加者の関心の高いものについては、改めて全員で話し合いを行い方向性を見出す



◆当日の流れ

10:00～ オープニング	11:00～ セッション Ⅰ	12:00～ ランチ& マーケット プレイス &休憩	13:20～ セッション Ⅱ	14:20～ マーケット プレイス &休憩	14:50～ 全体 ダイアログ	16:40～ クロージング
オープニング テーマ出し セッション登録		屋食 レポートの作成 レポートを読む		レポートの作成 レポートを読む	投票 全員で話し合い	チェックアウト



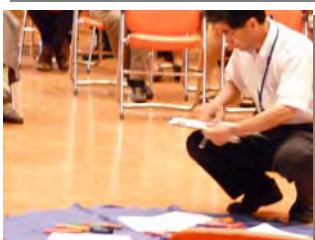
➤ 会場受付

参加者には、会場入り口で、各自で名札を作成していただくとともに、持参いただいたコメント入り招待状を掲示いただきました



➤ オープニング

オープニングでは、対話会の背景や位置付けを確認、話し合いの進め方が説明されました。また、周りの方とのあいさつや、何十年ぶりで旧知の人に再開したような気持ちでの握手を通し、場の雰囲気も少し和みました



➤ テーマ出し

参加者に自由にテーマを出すことが投げかけられ、中央のサークルで記入、発表が行われました。結果的に26のテーマ(セッションⅠ：16テーマ、セッションⅡ：10テーマ)が出されました



➤ セッション登録

掲げられたテーマについては、時間と場所が決められ、関心のあるテーマについて、参加者が名前を記入し登録が行われました



➤ セッションⅠ・Ⅱ

セッションのテーマを出したリーダーが、そのテーマをあげた背景や意図を話した後、オープンな意見交換が行われ、最後に話し合った内容や結論を含む議事録がまとめられました(各1時間程度)



➤ マーケットプレイス

セッションの後、議事録の作成や、作成された議事録を読み込んでいただきました



➤ 投票

全体ダイアログのなかでは、まず、参加者の皆さんに、私たちにとって、また自分にとって、そして小田原市の未来にとって重要だと思う結論に投票していただきました(1人5枚)。結果、「駅前」と「市民との協働」が皆さんの関心が高い結論となりました



➤ 全員で話し合い（バースデーケーキセッション①）

得票数の多いテーマについては、中央にセッションリーダー、関係者、ファシリテーターが座り、中央と全体で方向性を見出すための話し合いが行われました



➤ 全員で話し合い（バースデーケーキセッション②）

中央での議論が全体に投げかけられ、そして、全体(周りの人)で話し合いが進みます。その議論がまた中央にフィードバックされ、ぐるぐると回りながら全体の方向性を見出していきました



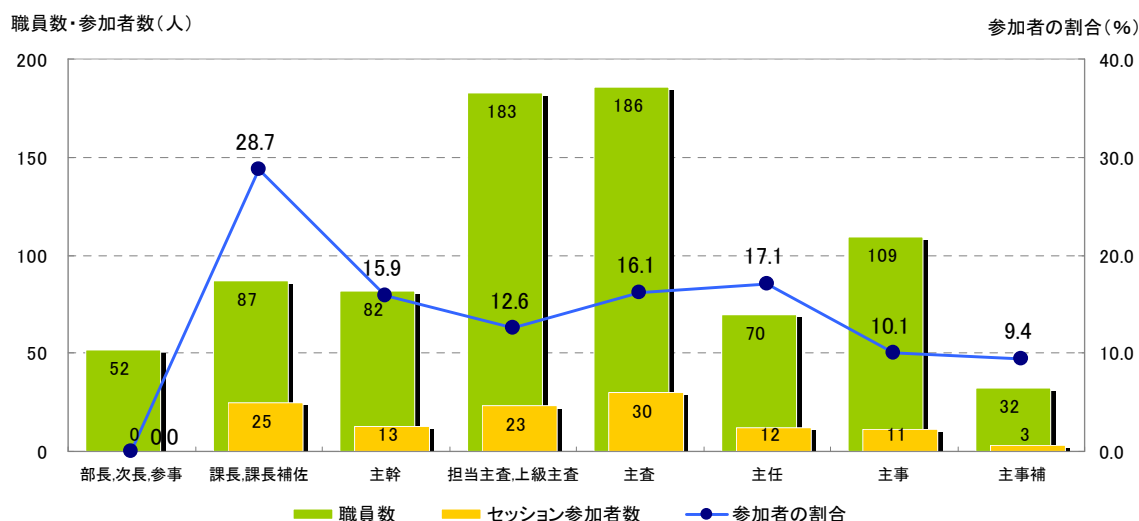
➤ チェックアウト

最後に、チェックアウトを行いました。参加しての感想や新たな気づきについて、参加者の皆さんで共有しました

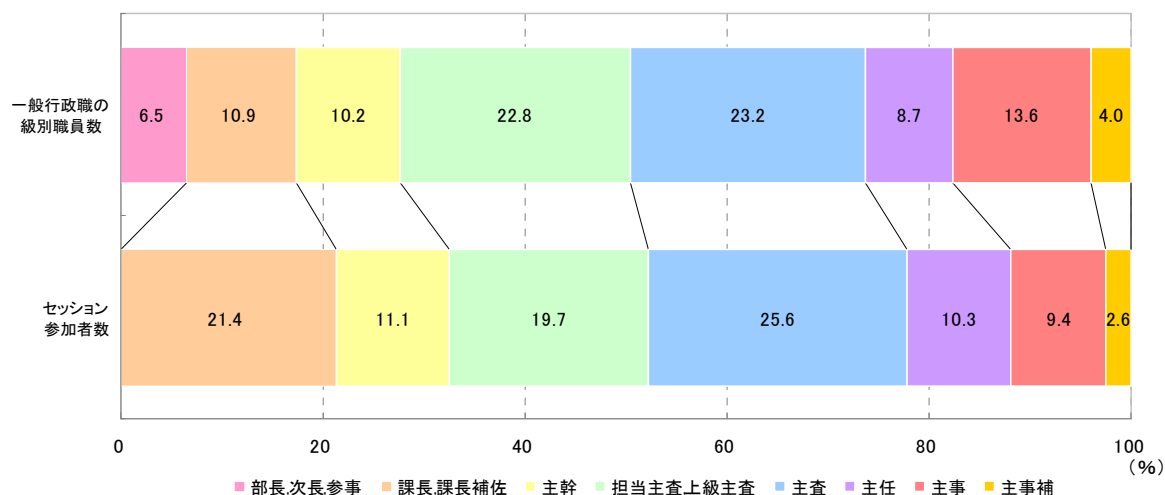
◆セッション参加者

- 参加者実数を見ると、主査(4級)が30名と最も参加が多く、次いで課長、課長補佐(7級)、担当主査、上級主査(5級)の順となっています
- セッション参加者を一般行政職の級別職員数と比較してみると、課長、課長補佐(7級)が最も多く、28.7%の方が参加されています
- 全般的に、若い職員の参加が少なく、こういう機会への関与について配慮する必要があると考えられます

《セッション参加者数(級別)と一般行政職職員数(級別、H20.4.1)の比較》



《セッション参加者と一般行政職職員(H20.4.1)の級別構成比の比較》



02 招待状コメント

◆招待状

- 庁内オープン・スペース・ミーティング参加者には、事前に招待状をお送りし、裏面に次の事項を記入いただき、当日ご持参いただきました

庁内オープン・スペース・ミーティング
「開かれた対話・新しい小田原へ」
招待状

ふじみ小田原市の未来を創造するためのオープン・スペース・ミーティングにご参加、ありがとうございます

今後の小田原市をどうしていきたいのかについて、皆さんと役割や価値の垣根を越えてオープンに話し合います。ふじみ小田原市の未来を共に創っていく仲間になることを心から楽しみにしています

総合計画チーム 一同

■日時 7月15日（水） 開始 10:00 終了 17:00 前
（受付 9:30～）

■場所 生涯学習センター・竹まきホール

■準備
●この招待状の裏面に記入の上、当日会場へお持ち下さい。
●記入があるシートのほか、名前、日を通して下さい。
●当日の朝食は各自でお持ちください。話し合った職員とこーごにお食事に行かれて調整するのを楽しみにしています

【お問い合わせ先】
企画総務課総合計画課（255）

以下をご記入の上、当日会場へお持ち下さい！
「開かれた対話・新しい小田原へ」

氏名 住所

あなたらしく、
小田原市役所の未来したい姿をうらやまは……

あなたは、7月15日をどう過ごしたいですか？

署名が明記してください

◆招待状の掲示

- 参加者（会場に足を運ばれた方：139名、セッションに参加された方：122名）のうち98名（会場に足を運ばれた方の約7割、セッションに参加された方の約8割）の方に記入いただき、会場入り口に掲示していただきました



◆招待状のコメント

- 招待状裏面には、①あなたが描く、小田原市役所の実現したい素晴らしい状態は…、②あなたは、7月15日をどう過ごしたいですか？、③関心があるシナリオを記入していただきました

【① あなたが描く、小田原市役所の実現したい素晴らしい状態は…】

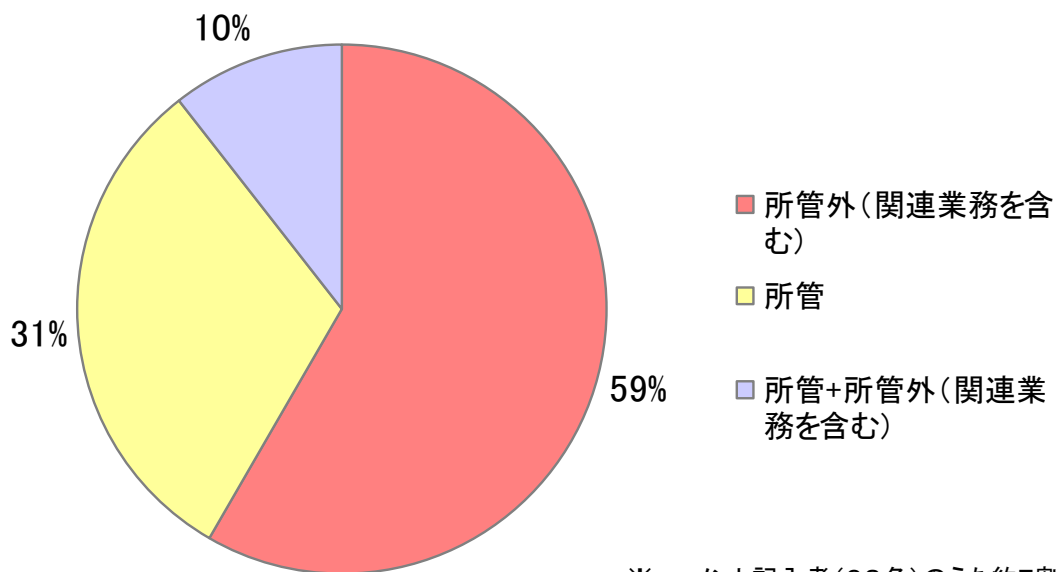
- 市役所の実現したい状況についてのコメントは、大きく、「市民との協働」の状態、「職員・職場や組織」の状態、「事務事業」の状態、「まち」の状態に分けられます
- 特に、市民との協働に関するコメントが多く、多角的に市民とともに歩んでいく市役所の状態を描いていることが伺えます
 - ✧ 地域と行政とが一体になって課題解決に向けた体制がとれ、市民の満足度が高く小田原に住みつづけたいと市民が思っている状態
 - ✧ 行政の知識、経験、情報等と市民参画が融合した、市民自治の実践が出来ること。
 - ✧ 市民の方々から信頼され、市職員が元気に主体的に働ける状態
 - ✧ 組織の枠だけにとらわれず、いつでもオープンに自由に話しができる
 - ✧ 誰もがいきいきと、お互いに助け合いながら暮らし続けられるまち

【② あなたは、7月15日をどう過ごしたいですか？】

- 当日の過ごし方についてのコメントは、その日を有意義に楽しく過ごしたい、率直な意見交換をしたい、いろいろな意見を聞きたい、積極的に意見を発言したいなど、前向きに対話会を捉えられていることが伺えます。
- このコメントと、アンケート調査の間「対話会は自分自身にとってどんな体験でしたか」の関係を見ると、概ね、参加者が思い描いていた当日の過ごし方が実現されていたことが伺えます。
 - ✧ 他部署の職員のいろいろな意見を聞きたい。
 - ⇒ 他課の職員、理事者の意見を聞け有意義であった。多数の意見を集約する手法についても驚いた。
 - ✧ 今後の小田原市がどのようになっていくのか各部署の職員が持っているイメージを掴みたい
 - ⇒ 普段は一緒に仕事の話をする機会のない職員同士が、一つのテーマのもと意見交換ができたことは有意義だった。お互いに利害のない立場で話し合うことで、さまざまな考え方や、建設的な意見が出てくると改めて感じた。

【③ 関心があるシナリオ】

- 関心の高いシナリオについては、これをもって優先度が高いという結論が導きだせるものではありません
- 参加者の所属と関心の高いシナリオの関係性をみると、59%の方が所管外のシナリオに関心を持っており、職員の想いが所属のなかでは完結していないこと、参加者の仕事が他課との連携のもとに進められている実体を伺うことができます
- 所管のシナリオに関心を持っている方は31%、所管外、所管ともに関心を持っている方が10%という結果になりました
- さらに掘り下げてみると、関心のあるシナリオについては、過去にその業務を経験していることが大きな要因のひとつになっているようです



※ コメント記入者(98名)のうち約7割の方(67名)が関心のあるシナリオを記入

03 セッション(Ⅰ・Ⅱ)

◆セッションの進め方

- セッションは自由に進めていただきました(なお、効果的に進めるためのヒントシートを用意しました)

《セッションの進め方》

- ◇ セッションのテーマを出したリーダーが、そのテーマをあげた背景や意図を簡単に話します
- ◇ つぎに、参加メンバーが、このセッションに参加した背景を簡潔に話します
- ◇ 最初は、このテーマに関わる事実や体験をもっている人に数分で語ってもらいます
(他の人は一生懸命に耳を傾けて聴くように聴くように、途中でさえぎって自分の話をしたり、批判や断定をしないように)
- ◇ テーマに関して、オープンに意見交換をします
- ◇ 話し合いをまとめます



◆セッション(Ⅰ・Ⅱ)議事録の概要

	テーマ	セッション リーダー	参加 人数	結論	アクションプラン候補・全体で検討してほしいこと・ 皆さんへの投げかけ	得票
I_1	効率的で質の高い 行政サービス	奥津晋太郎	2		・特定施設の事業仕分けを！	1
I_2	一人の生命を大切に する	岸成典	4	一人の生命を大切(守 る)にするのが市(行 政)の基本！	・福祉の対象は 歳～ 歳まで？ ・ホームDr制度の充実	9
I_3	市民要望に対する 審査	露木幹也	7	市民による要望の正当 性を判断するシステム がほしい		15
I_4	開かれた海へ	多田 功	11	観光資源としての環境 整備	・西湘バイパスから直接海へ ・駐車場、トイレの整備 ・養浜で砂浜を広げる ・遊歩道やサイクリングコースの整備 ・海遊びのマップ作成	18
I_5	デザインとは	古矢智子	8	チラシから始めよう！行 政デザイン	・チラシなどのデザインの統一を図るためのフォーマットづくり ・職員のデザイン力を高めるための土壌づくり ・CIの効果的な利用	5
I_8	市民との協働	府川悟志	12	協働とは担い手の育成 (醸成)	・協働の定義 参加: 受身 協働: 対等の立場で参加 ・モチベーション向上のための仕組み ・担い手の負担を平準化する仕組み ・地域格差を認めて競争を促す。	45
I_9	小さな環境保全	小鷹英由紀	6	「環境保全」は「義務」で はなく「生活を豊かにす る」ためのもの	・「生活を豊かにするため」の環境保全の行為なら取り組みやすい、そういう活動を支援する ・子どもが遊んで、自然の大切さを知る場所を作る ・子どものうちから、地域の活動(清掃)に参加することで理解を深める	29
I_11	地域担当制につい て	杉崎智	12	担当職員が孤立しない ルールづくり、体制づく り	・担当職員が持ち寄った地域の課題について全庁的に取り組んでいくサポート体制の充実	39
I_12	新 おせっかいのス スメ	小野塚大介	8	旧おせっかいの復活と 新おせっかいのススメ	・旧おせっかい: 団塊の世代をおせっかいやきにして地域で活躍してもらおう ・新おせっかい: 行政によるおせっかい ・職員が縦割り行政ではない、幅広い知識を身に付ける ・おせっかいと言われることを恐れない	4

	テーマ	セッションリーダー	参加人数	結論	アクションプラン候補・全体で検討してほしいこと・皆さんへの投げかけ	得票
I_13	住みにくい小田原	織田澤博	8	実は、住みにくくなかった小田原	・世代を超えた地域コミュニティの形成	1
I_15	チームワークについて	諸星喜則	3	自立と思いやりを尊重した仲間との協働	・みなさんの職場のチームワークはどうですか？ ・あなたの思うチームワークって何ですか？	13
I_16	郷土愛を育む	湯川貴裕	6	知らないから無関心、情報共有を！	・効果的な情報発信 ・世代間のネットワーク化 ・独自の子供教育プログラム	13
I_20	景観について	初瀬川芳典	4	地域に根ざした景観形成を進めることがコミュニティの強化につながる	・みなさんの足元で、今できることは何ですか ・景観農振	11
I_21	子育て支援について	隅田俊幸	9	基本は家庭(個々の家庭ではなく、地域にとけ込んだ家庭)	・子育てノーマルDayをつくろう ・子育てを介して親が楽しもう！	37
I_23	キャンプの持つ可能性について	松山成二	7	キャンプは体験学習の原点だあ～！	・目的をもったキャンプ(環境教育・人材教育・福祉教育、etc・・・) ・そのためには、リーダー育成が必要 ・施設の確保(必要最小限の設備と広大なスペース確保)	15
I_25	小田原を目立たせる	飯山淳二	13	魅力のトータルコーディネートと行政主導からの脱却	・「トータルコーディネート」は誰がやるのか？ ・民間に主体性を持たせるためにはどうしたら良いのか？行政は手出ししないほうが良いだろうか？	36
II_6	箱根への通過点としての開き直り	太田明宏	8	観光客の胃袋をつかめ	・小田原市を知る(現実を知る、歴史を知る) ・食べ物とトイレで箱根の観光客をつかむ	41
II_7	片浦中の利用について	古前田一人	12	お金をかけずにえれんな(いろいろな)事ができそう	・地域コミュニティの継続 ・片浦地域のすばらしさを誰もが共有できるような施設 ・片浦の活性化につながればいい	20

	テーマ	セッションリーダー	参加人数	結論	アクションプラン候補・全体で検討してほしいこと・皆さんへの投げかけ	得票
Ⅱ_10	みんなにやさしい街 小田原とは？（ハード面・ソフト面）	秋澤和典	7	安心安全＋信頼＋支え 合い＝やさしいまち	・職員から積極的に声をかける市役所づくり ・小田原の「やさしい所」がどこなのか（全体で検討してほしい）	12
Ⅱ_14	今後の小田原競輪 事業について	田辺周一	9	競輪場の魅力アップ	・フリーマーケットの開催（女性・家族） ・子供の遊び場（変り種自転車、芝生化）（子供） ・体験走行とプロショップの誘致（自転車乗り） ・開催日以外の施設の有効利用 ・マイクロバスの東口送迎（商店街の活性化） ・カップル、家族ゾーンの設定 ・サイクルフェスティバルの開催 ・小田原ブランドの来店	20
Ⅱ_17	駅前	加藤和永	16	にぎわっていた方がいい	・経済活動に投資するのではなく、その環境づくりへの投資を優先 ・小田原駅前の投資優先順位の見直し	62
Ⅱ_18	これからの小田原 市職員について	石塚宣一	16	ほめられ、認められ、信 頼される職員を目指す	・メンター制度の導入（指導者の成長） ・担当職務以外の研修への理解 ・異動希望を反映する ・職員同士が日々評価する ・支所勤務を経験すると良い ・置かれた立場で全力を尽くす ・処遇においても絶対評価 ・楽しい活気がある職場づくり ・スペシャリストとゼネラリストの道 ・成果を評価する仕組みづくり	41
Ⅱ_19	あなたが望むホーム ページ	早野智洋	7	利用しやすい市民目線 のホームページ	・あなたの課のホームページ、大丈夫ですか？ ・「こういった情報が欲しい」を募集します！	4
Ⅱ_22	これからのライフス タイル（小田原スタ イル）	山口一哉	12	心豊かな生活が送れる まち	・いろんなスタイルが選択できる ・東京と小田原の距離感を生かす ・（東京から）80km圏内で海・山・川がそろった数少ないまち ・多くの素材を生かす施策 ・実践者の体験（カリスマ） ・官民共働の取り組み	40
Ⅱ_24	子供たちの育成に ついて	吉澤元克	12	子供と一緒に大人も育 とう	・地域の子供は地域で守る ・大人と子供のコミュニケーションの場を確保 ・大人が注意しやすい雰囲気づくり ・「しゅうちん」講習会 ・本当の「カッコヨサ」を探そう	14
Ⅱ_26	小田原の文化遺産 市民文化をまちづく りに生かすには？	大島慎一	8	わかりやすい戦略・市 民意識づくり	・「小田原はスゴイ！！」と多くの市民が思ってくれるようになる 様々なアイデアを考えよう！	24

04 バースデーケーキセッション

◆バースデーケーキセッション

- 参加者の皆さんの投票により、小田原市の未来にとって重要だと思う結論として選ばれた「駅前(62票)」、「市民との協働(45票)」について、全体の方向性を見出すための話し合いが行われました

《バースデーケーキセッションの進め方》

- ◇ セッションリーダーが、セッションを掲げた背景や話し合いの内容、結論を紹介
 - ◇ 中央に座っている方が、感想や自身の思いを順に語る
 - ◇ 一周したところで、中央での話し合いの内容を受けて、自分自身がどう思ったかを周囲の方と話す
 - ◇ ある程度、話が進んだところで、全体からコメントをいただき、再度中央で話し合いを進める
 - ◇ これを繰り返し、全体としての方向性を見出していく
- ひとつめのテーマ「駅前」では、結論として、小田原駅前は賑わっていた方が良いが、経済活動そのものではなく環境づくりへの投資を優先すべきで、全体からみて駅前への投資優先順位を見直すことが必要ではとの投げかけが行われ、話し合いが進められました(→詳細は議事録参照)
 - ふたつめのテーマ「市民との協働」では、「協働」をキーワードにセッションが進められ、結論として、協働の担い手をいかに醸成するかの方法論が大事で、負担の軽減、自己実現の満足感、活動が報われる意識が必要ではないかとの投げかけが行われ、話し合いが進められました(→詳細は議事録参照)



05 チェックアウト

◆チェックアウト(コメント抜粋)



- 所管横断的にその場での議論をまとめていくコミュニケーションの仕方があるのだということに、皆様自身も可能性を感じたと思います。
- 市民を交えた形で活かし、これからも理解していくことで協働やコミュニケーションができると深く確信し、大きく花開くと思いました。



- 普段市役所の職員とお話する機会はないので、今日は自分の財産になりました。
- またこういう機会があれば参加させていただきたいと思います。



- 仕事の場やプロジェクトの会議だと私もそうですが、自分達がやることを考えて、どうしても硬い意見になる。
- 仕事を離れた自由な意見をいただけて良かった。



- 久しぶりに議論に参加させていただきました。
- 最初はとまどいながらでしたが、このミーティングの趣旨にあった、新しい気づきとか人がどんなことを考えているのかを垣間見られて、業務についてもまた生きてくるのかなと思いました。



- 今回、シナリオプランニングから新しい手法を取り入れて、オープンスペースミーティングがどういう位置付けになるかと思って来ました。
- 今日出た中でプランに活かせることはなかったですが、こういう手法を職場内部でも取り入れて今後のプランニングにも活かしていきたいと思います。



- オープンスペースミーティングは初めてで、どんな風になるかと思っていました。
- テーマを出していいというので、「これからの職員について」を出させていただきました。
- 顔は知っているけどなかなかしゃべる機会とか議論する機会がなかった人たちと議論できて大変良かったです。



- 心意気のある方がテーマを出して、議論する時にはかなり掘り下げた議論がその所管でない方からも出されていて、市役所の皆さんは本当に勉強家だと思いました。
- 初めてでとまどうこともあります、仕事で普段接しない方と話すには良いツールだと思います。



- 初めての話し合いの場で、ルールとして否定しない、最後まで話を聞くということで、非常に言いやすくて良かった。
- 次回、またこういうのを続けて欲しいですが、職場に戻って若い者を連れてきたいと思います。



- 大変刺激を与えられて楽しかったです。この場を作っていた方に感謝したいです。
- これから市民の方といろいろな場所や仕事で共同作業になると思いますが、こういうざっくばらんな話をするのは、良いトレーニングであったように感じます。



- シナリオプランニングからずっと参加して個人的にも刺激を受けています。本当に初めてのことで、一体何をやるんだろうと毎回思っています。
- 普段お話しする機会のない職員の方と話せたこと、直接理事者の方の話を聞けたこと、この機会は本当によかったです。



06 参加者アンケート（振り返りシート）

◆参加者アンケート

- 庁内オープン・スペース・ミーティングのセッション参加者には、開催から一週間後、メールにてアンケート（自由記述）に協力いただきました。
- このアンケートの目的は、対話会に参加してみての感想をお聞かせいただくとともに、改めてどんな価値があったかを、参加者自身が振り返る機会として捉えています。
- 116名の方にメールをお送りし、85名の方から回答をいただきました。（回収率：73％）

◆結果

- 各設問の回答については、読みやすくするため、大きく分類しています（設問2を除く）。ここでは、その一部を紹介します。

《設問1》 対話会から数日経ったいま、共に取り組んだ対話会を思い返してみてください。一言で言うとしたら、それは自分自身にとってどんな体験だったと言えるでしょうか？そう感じた要因には、どんなことがありましたでしょうか。

[情報共有の場]

◇ 「職員間の、共通した小田原への想い」を実感しました。自分の参加する前からテーマとして思っていたことが、他の職員からも出され、同じグループで話し合うことで、共通の想いが分かち合えて、よかったです。

[新しい体験]

◇ 新しい体験。いろいろな所管の方々と、ざっくばらんかつ真面目な話ができただけのため。

[開かれた自由な対話]

◇ それぞれが意欲と善意をベースとして、思いをぶつけ合える場。立場やしがらみなどに気を使うことなく話せることの心地よさがあった。

[テーマの出し方、関わり方]

◇ 自分が業務上抱えるテーマに対して市職員の問題意識が高い一方で、認識が様々で差異があること、を改めて認識できた。

[場の雰囲気]

◇ 市の課題について気軽に話し合うことができ、有意義だった。会議室での「会議」ではなく、寄り集まった「話し合い」といった雰囲気で進められたため、意見交換が活発になったのではないと思う。

◇ ビバリーヒルズ青春白書の舞台に放り込まれたような体験。大勢の人の前で話したり、全く知らない人と議論してアメリカンな感じがした。

[対話の必要性]

◇ 二十代の若い方からの話かけがあり、こんなに真剣に将来のことや、仕事の事を深く考察していることが新鮮であり、最近このような討論をしたことがなかったので、改めてもっと若い人との対話に努めてみようと思っている。

[個別テーマ]

◇ 海の利活用に関するテーマを提案した。参加した職員には若者が多く、これらの発言の中で、海への関心の高さや、海という自然に敬意を払っている者が予想以上に多いことに驚いた。

[その他]

◇ 対話の難しさ、面白さを改めて感じました。

◇ 意見集約の大変さ。当たり前ですがいろいろな人の考え方があるのだなと。職員ですら十人十色の発想があるので、これが総合計画の策定作業で市民委員等の意見を聴くとなると、かなりの労力を要することが身にしみてわかりました。

[違和感]

◇ 違和感がありました。【要因】話し合いや協議を行う内容は事前に事務局等が決め、その内容について説明があるものと考えていたから。

《設問2》 対話会を思い返して、特に思い出された場面や出来事は何でしょうか？誰かの発言かもしれませんし、自分自身が何かに気づいたことかもしれません。具体的にご紹介していただけますか？

- ◇ 堅かった雰囲気が、挨拶によって変わって笑顔が生まれたことです。
- ◇ テーマを積極的に出す職員の多いことに素晴らしいと思った。やらせなしという事を聞き、さらに驚いた。
あの状況下で、最初のテーマを発案できた人たちって単純にすごいと思った。グループ討議の中で、職員間の認識やものの見方が違うことを痛感した。共通認識することで業務が進む点もあるので部署をまたいでの連携も必要である。
- ◇ 最初の話し合いの題材(テーマ)の場面です。最初は、なかなか題材が出てきませんでした。私も最初は、周りの様子を見ていましたが、対話会の雰囲気がとても良く、率先して題材(テーマ)を発表する気持ちになった。
- ◇ 対話をする中で、周囲の意見と反しても独自の持論を展開する人、周囲の意見に配慮しつつ自分の意見を言う人の大きく分けて2種類あるような気がした。
- ◇ 私個人の考えに固執した感あり。もう少し他のメンバーの意見に身を委ねて、自分自身を客観的に観察できていれば柔軟な発想が出てきたかも。
- ◇ 関心のあるテーマに参加しているだけに、向かうべき方向性は異なるものであったとしても積極的な意見交換ができ、グループ内に参加しているだけという人はいなかった。
- ◇ グループ毎の話し合いをしていく中で、自然と全員の役割が決まっていく感覚。
- ◇ 「市民との協働」や「駅周辺のまちづくり」の問題点や課題は20年前とあまり違いがない。
- ◇ 「小田原スタイル」をテーマにしていたグループがあったが、その内容は「小田原に住む人のライフスタイルとはどのようなものか」ということであり、自分が聞いていた「小田原スタイル」である、「小田原に関する情報誌」のことではなかった。これから先も「小田原スタイル」が話に出るのであれば、どのような内容をさしているのか統一した見解を示してほしい。
- ◇ 「協働」という言葉が持つ意味を改めて見つめなおすきっかけとなった。
- ◇ 議論テーマの求め方が無茶だと閉口したが、次々と出てきて正直驚いた。テーマを提議する自分に対しても不思議な感じがした。協働の定義について、自分で未消化な部分が理事者の皆さんも同様だったところが印象的だった。小田原のスタイルの確立を急ぐ必要がある。
- ◇ 理事者が車座になり意見交換をされた場面。直接、理事者の考えをいろいろな職員が聞いたことは貴重だと思う。
- ◇ 青少年課の瀬戸さんの発言だったと思うのですが、「今後も、このような場が継続的に設置されることを望む」との意見に賛成します。今後も、より多くの人たちと議論できるような機会にめぐり合えることを期待します。
- ◇ 印象的な発言がなかったことが印象的だった。良くも悪くも職員はまじめに考え常識的に判断している人がほとんどだと感じた。

《設問3》 対話会に参加する前と後では、何か変化はありましたでしょうか？ささいなことでも結構ですので、教えていただけますでしょうか？

〔職員の意識の高さ〕

- ◇ 特別大きな変化はまだありませんが、小田原市の職員の中には、問題意識が高い人が実はかなりいるということがわかっただけでも大きな一歩のような気がします。

〔共通認識の高まり〕

- ◇ 同じ小田原市の職員として、共通認識が高まった感じがします。これから、何か事業を進めていくにうえでも、こんなに情熱を持った職員がいるんだってということが、理解できただけでも、有意義であったと思います。市政にかける職員の熱い情熱を無駄にしないで、そのエネルギーを今後、生かさない手はないって強く感じました。

〔多くの意見を聞くこと〕

- ◇ 職員一人ひとり違う考え方を持っていることは承知していたが、普段あまり会話をしないような人の意見を聴き、考え方は違えど、方向性にあまり違いがないことを認識できたは収穫であったと考える。

〔自由に意見を言える環境〕

- ◇ この対話会もそうですが、TRYミーティングに出席してから、職場での打合せも変わってきております。最近、この会議の進め方を利用させていただいており、各自の意見が簡単に色々な思いを表に出せ、より深く考える事が出来ていると思います。

〔視野の広がり〕

- ◇ 自分が業務上携わったことのない分野の業務にも、わずかばかりだが関心を持つ度合いが高くなった気がする。

〔総合計画策定への関心〕

- ◇ 総合計画策定について、参加する前までは報告される結果を見ていただけだったが、自分が参加することによって、より関心が持てるようになった。また、話しの中で、現状の課題、改善が必要なことなどの話を聞いたので、それらを意識するようになった。

〔職員間の距離〕

- ◇ 市職員は、小田原のまちづくりに共に取り組む仲間だということを自分自身の中でよりいっそう強く感じられるようになりました。そして、普段、通常の仕事におわれていますが、多くの職員と話し合うことの大切さも再認識しました。

〔挑戦する気持ち〕

- ◇ 総合計画の策定に限らず、新たな手法で進められる仕事については、「今までどおり」や「前例を参考に」といった考えではなく、新たな視点と挑戦する気持ちをもって臨まなければならないと強く感じた。

〔対話の手法〕

- ◇ 対話会での進行方法が全く予想できていなかったため、最終段階まで到達して、そのストーリーの設定に感心した。
- ◇ こういう対話会はいいい手法だけど、進行の仕方などを十分に工夫しなければ、今回のような時間の無駄使いに終わってしまうということがわかった。

〔対話の大切さ・難しさ〕

- ◇ 大きな変化はありませんが、相手の話を理解することやこちらの意見を伝えることの難しさを再認識しました。

〔その他〕

- ◇ 同様の場が日常的になることへの期待感がある。話したことが、そのまますぐに成果につながったり、形になる訳ではないと思うが、少なくとも話すことの心地よさは意欲につながると思うので。
- ◇ 職場に戻ると、、、、、、やわらかい発想は萎む傾向がある。（役人の悪い性かも）

〔変化なし〕

- ◇ 今のところ特に変化はありませんが、変化するような気がします。
- ◇ 個人的には特に変化を感じません。

《設問4》 対話会をきっかけに、今後自分なりに取り組んでみたいとか、参加された人やされなかった人と協力してみたいと思うようなことはありますでしょうか？

〔組織を越えた対話の場を〕

- ◇ いままでは、上司の意見や命令を遂行することが、与えられた仕事と認識していました。しかし、今回の対話会に参加して、たくさんの人との意見交換を行うことがとても重要だと認識させられました。
- ◇ 職員一人ひとりが日ごろ考えていることを常に引き出せるような環境や仕組みができないだろうか。このオープンミーティングのように、メンバーを固定せず、個人的に関心のあるテーマに任意に集まってもらいながら進めるプロジェクト等の方法も十分可能性がある。
- ◇ 市役所では基本的に縦割りで仕事を進めていくことが多いと思いますが、もっと横のつながりを意識して仕事をすれば、新たなアイデアなども生まれやすくなってくるし、これからの時代はそうすることが必要であると感じます。そこで、今後は個人としてもできるだけ横のつながりを意識しながら仕事を進めていきたいと思っています。

〔他課との意見交換〕

- ◇ 担当業務に関する他課との意見交換。自分の担当業務が、どう見られているのか外の視点からの意見をもらいたい。
- ◇ もう少し小規模な形で自分が担当している業務について、いずれ意見交換を行ってみたいと思う。

〔組織内での取り組み〕

- ◇ 担当業務においても、今回のようにテーマを定めて自由に意見交換する手法を取り入れてみたいと思う。
- ◇ 部課内でも同様な対話会を積極的に開催していきたい。

〔個別テーマの取り組み〕

- ◇ 「これからの小田原市職員について」とのテーマ出しをさせていただき、色々ご意見等をいただいたので、今後の業務への参考にしたい。
- ◇ いろいろな機会を捉えながら、まちづくりについて意見交換をしていきたい。(今回の新総合計画に係る一連の取組みで自分なりに感じたことを伝えながら)

〔職員の地域・市民活動〕

- ◇ 職員がもっと地域活動や市民活動に取り組むことを薦めたい。また、どのような仕事でも、組織的に連携したり、協力しあって、助け合っていく職場環境をつくりたい。

〔その他〕

- ◇ 改革に取り組む前から諦めている人を励ましたいと思っています。

〔特になし〕

- ◇ 具体的なイメージは、まだ沸きません。
- ◇ 特にありません。

《設問5》 そのほか、どのようなことでも結構ですので、おつたえしたいことがありましたら、ご自由にお書きください。

[よい体験]

◇ 貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

[意欲(またやりたい)]

◇ 上司、部下の関係を度外視にした今回のオープン・スペース・ミーティングを今後も、継続されることを望みます。部長のコメントにもあったと思いますが、部下と本来の業務に関係のないことを議論することは新鮮さもあり、大変すばらしいことだと思います。多くの職員が体験できることを期待します。

[新たな手法]

◇ 職務の上でも多くの意見を聞いてみたいという職員は多いと思うが、誰に声をかけるのか、それぞれ忙しい中で協力してもらいづらいなど、実際に行うには難しいところがある。LANでテーマ募集を行い関心のあるテーマに職員が参加するシステムが定着したら、小田原市も風通しがよく、よりよい行政運営ができるようになるのではないかと…と思わせる期待感のある手法だと感じた。

[参加者]

◇ 我が社には若い優秀な職員が多いことを再認識いたしました。

◇ 市長さんや副市長さんが出席したことによって、普段の会議よりも活発な発言があったような気がしました。

[対話会の進め方]

◇ テーマごとのミーティングは、5名以内程度の人数でないと成り立たないと感じた。最後の全体での方向性の確認や認識の共有作業の結果には、納得がいかなかった。周りの意見が反映可能なテーマのみを対象とするか、参加者の多くが納得できるまで意見交換を続けるなど、まだまだ改良の余地があると感じた。「テーマを掲げて様々な人と意見交換する」という経験が日常的に活用できるようなツールとして組織内に備わると良いと思う。

[疑問・投げかけ]

◇ 開かれた対話、というのはそのとおりであった。一日研修を受けたような感覚だった。総合計画策定の理解不足もあると思うが、あれだけの労力(人件費)をかけてやることかどうかには疑問が残る。総合計画への反映のさせ方次第でこのOSMの成果が判断されると思う。

◇ 庁内オープン・スペース・ミーティングの目的が今一わからなかった(トライフォーラムやシナリオプランニングとの関連性など)。

◇ 総合計画に全庁的に費やす仕事量がかなり多い気がします。しわ寄せがどこかに出ていませんか？

[その他]

◇ 市民の意見を反映することは大切なことではありますが、やはり行政としてやるべきこと、やらなければならないことがぶれてはいけないと感じます。